

日本気象学会東北支部 臨時理事会 議事録

2014年1月20日（月）17時25分～17時55分、仙台管区气象台第3会議室（3階）

出席者（敬称略）：牧原、岩崎、青木、和田（代理）、葦澤、白川（以上理事）、山崎、金濱、折笠（以上幹事）、早坂、岩淵、彦坂（オブザーバ）

司会：折笠

議題：「平成25年度第2回支部長会議」における各支部依頼事項への対応

1. 支部活動報告：議案のとおり。

2. ジュニアセッションの開催：

- ・対象として小学生にするのか、中・高校生を対象にするのか、選定したテーマ内容に沿って検討する必要がある。
- ・ジュニアセッション単独でイベント開催するのは大変である。
- ・大会とセットで行うとすると開催曜日を週末にする工夫が必要。
- ・実施するためには準備の段階で、地元の教育委員会への働きかけも必要となってくる。
- ・気象学会九州支部での福岡県内の小学生を対象に気象に関する作品発表の場とした「こども気象学会」、日本天文学会での全国の中学生・高校生を対象に天文学に関する研究発表の場とした「ジュニアセッション」、日本物理学会での全国の高校生を主な対象に物理的内容を含む理科の研究発表の場とした「Jr.セッション」の取り組みを情報共有した。
- ・ジュニアセッションに限らず、気象学会のアウトリーチ活動をどう進めていくかも課題。
- ・現時点でのまとめとして東北支部としては前向きに検討するが、今はまだ準備の段階で教育委員会や関係機関と連携を探るところから。対象を小学生もしくは中高生にするか、目的を整理して検討していく必要ありというスタンスとする。

3. 会員数減少対応策（予報士会会員、気象庁職員、学生）：

- ・予報士会会員が大会に参加しやすい環境を作るという意味で、秋季大会の曜日も重要な要素の一つ。
- ・予報士会会員、気象庁職員など、大学関係者や研究者以外の方も一同に会して気軽に参加発表出来るセッション、より興味を持ってもらえるセッションを増やしていくのも有効かと思われる。
- ・学会内でも議論しているが、会費の差別化をどう進めていくか課題となっている。
- ・学会に入っているメリットとして、学会員が興味を持つ企画を設定する、より廉価な料金で入手できる情報がある、など仕組み作りが必要では。
- ・学会として大会と機関誌をもっとオープンにして、会員間の交流を図り情報交換の場を提供していかないといけない。
- ・最近では気象や流体分野において、博士課程まで進む学生が少なくなっている傾向があり、入会者数が少なくなっていると考えられる。
- ・学生を卒業した人が継続して入会してもらうためには、費用メリットを設定するか、継続するメリットを感じてもらえる学会にする必要あり。

その他・補足：

- ・来年度以降において支部長会議の開催時期が固定化しているわけではないが、今回のように各支部への依頼事項が定例の東北支部理事会より前に届くこともあり得る。
- ・来年度以降は、東北支部としてどのような形式で対応するかを含め、定例の支部理事会等の開催時期をいつにするか、次の東北支部理事会等で検討することとする。

以上